

令和6年度事業報告

自 令和6年4月 1日

至 令和7年3月31日

1 概況

令和6年度は、コロナ禍、紛争、金融引き締めなどの混乱を乗り越え、緩やかに景気回復した年度となりました。

また、米中対立やロシアによるウクライナへの侵攻の長期化、混迷を深め続ける中東情勢など国家間対立が激しくなっており世界経済への悪化が懸念され、世界規模の気候変動などのグローバルな課題に対処するため、多国間協調に向けた努力が求められています。

わが国経済を見ますと、コロナ禍から脱し、企業収益が過去最高を更新し、企業の高い投資意欲など、企業部門が堅調さを維持しており、緩やかに持ち直している。その一方で個人消費は家計の節約志向で名目賃金の伸びが物価上昇に追い付いていないことから個人消費は力強さを欠いており景気回復力は弱い状態が続いています。

このため、政府は令和6年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2024～賃上げと投資がけん引する成長型経済の実現～」に基づき、安定的な物価上昇の下で賃上げに支えられた消費の増加と企業の投資拡大が持続的な経済成長への好循環をもたらす「成長型の新たな経済ステージ」へと移行させていきました。

そのような中、自動車の国内市場を見ますと、令和6年の国内新車販売台数は、コロナ禍による半導体並びに部品供給の回復に伴い、受注残があった人気車の納期遅れも改善しつつあるものの、自動車メーカーによる認証不正問題の一部車種の受注見合わせの影響もあって、登録自動車及び軽自動車の総計で457万5705台（前年度比1.0%増）と微増となりました。

また、整備業界の経営基盤となります自動車保有台数は、令和6年12月末現在で全国において8309万3587台（前年同月比0.05%増）で推移し、県内では151万1824台（同0.1%増）となっております。

自動車整備業界では、令和6年10月にOBD検査が開始されました。本年も急激に進む自動車の新技術への対応、継続検査OSSの利用促進、OBD検査及び自動車検査証の電子化への対応、自動車整備士の養成・教育並びに整備事業者の健全な経営に向け支援・協力を図ることにより、地域社会全体の安全・安心に寄与できる自動車整備業

界の振興発展に努めました。

こうした状況にあつて、当振興会は令和6年度事業計画に基づき、各種事業を遂行してまいりました。

まず、意見公表、調査研究事業としては、日整連の会議や調査の機会に整備業界の意見を具申いたしました。また、特定整備業実態調査をはじめ整備需要等の動向調査など多くの調査を会員各位の協力を得て実施しました。

また、公表された調査結果につきましては、「図で見る整備白書」の配付や情報誌「整備みえ」、日整連情報誌「Jaspa News」に掲載することにより会員への周知を図りました。

必要な講演又は講習の実施事業としては、毎年定期的に実施している自動車整備士養成講習や自動車検査員養成講習等は、計画どおり実施することができました。

電子制御装置整備主任者等資格取得講習や整備主任者法令研修及び技術研修、自動車検査員研修、指定自動車整備事業者研修においても、三重運輸支局と協調を図りながら計画どおり開催することができました。

また、高校生を対象とする自動車整備体験学習会を昨年に続き開催し、自動車に興味ある11名の学生に参加していただきました。

自動車使用者対策事業としては、日整連が全国展開するマイカー点検キャンペーンに参画し、「マイカー無料点検コーナー」、「マイカー点検教室」を自動車整備組合(協会)と協賛のもと各地で開催し定期点検整備実施率向上に努めました。また、街頭検査については、チラシ等にて点検整備促進啓発を行いました。

自動車整備技術の向上及び自動車整備事業の運営、改善に関する相談、指導事業としては、年2回の自動車整備技能登録試験を円滑に実施するための準備、進行に万全を尽くし実施しました。

また、県内自動車整備事業場で就労する外国人技能実習生に対する外国人自動車整備技能実習評価試験を実施し、ベトナム、フィリピンなど各国からの技能実習生118名が受験されました。

広報活動事業としては、テレビ、ラジオ等マスメディアによる広報や映画館でのシネアドによる広報を拡充し、定期点検整備の励行を広く呼びかけました。

また、情報誌「整備みえ」の掲載内容充実や当会ホームページの刷新を図り、会員及び一般ユーザーに役立つ情報提供に努めました。

行政協力事業としては、不正改造車排除運動、定期点検整備推進運動、交通安全運動などの行政施策に積極的に参加いたしました。

組織運営事業等共益事業としては、会員事業者やその従業員に対する多種の表彰に推薦をし、又は表彰してまいりました。

継続検査ワンストップサービス（O S S）業務については、自動車検査証が電子化されたことで記録等事務代行者の利便性を訴え、利用事業者登録の促進を図ったことで多くの指定自動車整備事業者に申請していただくことができました。

整備業界の未来を考える会は、3回の会議を開催し、12月三重運輸支局主催による「みえ交通安全・環境フェスタ 2024」に参画し、子供たちに点検整備を体験していただき、自動車整備士に関心を持っていただく取り組みを行いました。また、3月に三重運輸支局等の行政機関との意見交換会を開催しました。

収益事業としては、登録番号標交付代行業務及び車両番号標頒布業務において、全国版図柄入りナンバープレート及び大阪・関西万博ナンバープレートの交付及び頒布を継続するとともに、先行する四日市ナンバー・伊勢志摩ナンバーの図柄入りナンバープレートのPRを強調するなど、円滑な運営に努力いたしました。

以上、各事業計画により実施いたしました内容の詳細につきましては、以下の項目のとおりであります。

これ偏に関係官庁のご指導並びに関係団体のご協力のほか、会員各位のご理解とご協力の賜物と衷心より感謝申し上げる次第であります。